



平成24年度の活動報告書

デザインの力で、きっと社会は変えられる。

[2013.06.20/03]



遊びながら学ぶ/NPO法人

子どもデザイン
教室

Children Design Education

☎06-6698-4351

〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-20-15

☎06-6698-4352 ✉info@c0d0e.com

www.c0d0e.com

序章 活動の目的	02
第1章 子どもデザイン教室の活動内容	04
第2章 子どもデザインビジネスの活動内容	14
第3章 子どもサポートホームの活動内容	19
終章 将来の展望	23
関連資料 収支報告書	24

デザインの力で、きっと社会は変えられる。

「子どもデザイン教室」の活動目的は、親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会にすることです。

親の貧困や病気・虐待が原因で、親と暮らせない子どもたちは全国に約47,000人います。そのうち、児童養護施設の場合、原因の約43%が虐待や育児放棄といった親の問題行動です。平成23年度の虐待件数は59,800件にもなっています。こうした子どもたちは、愛情不足が原因で気持ちが不安定になったり、学力や生活力に弱さがでたりします。例えば、大学進学率は一般世帯が67%であるのに比べて、児童養護施設経験者はわずか16%しかありません。また、一般世帯の16%が年収200万円未満であるのに比べて、児童養護施設経験者の親は約51%が年収200万円未満で、深刻な状況がうかがえます。さらに問題なのは、この貧困が連鎖する点です。

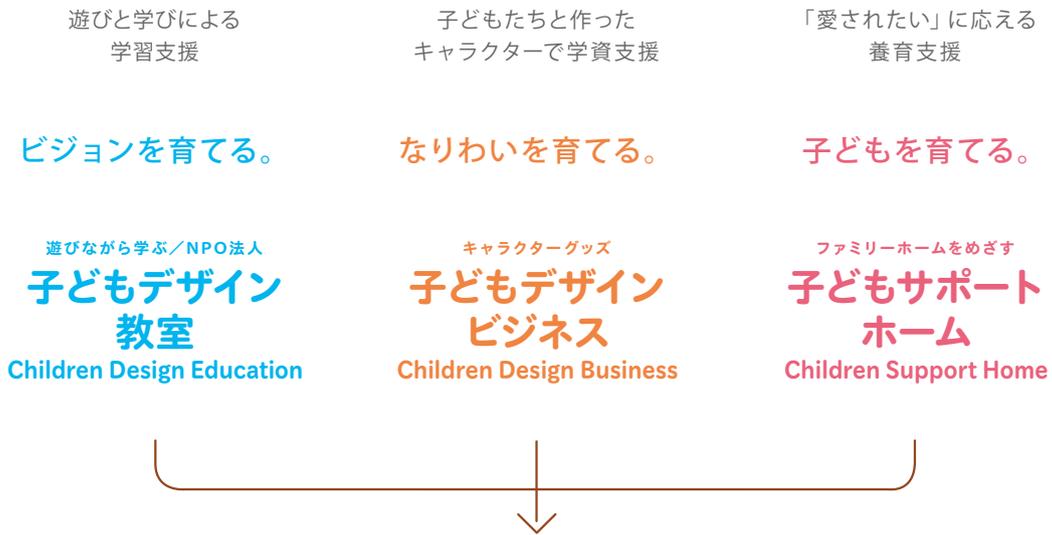
親と暮らせない子どもたちの多くは身寄りがなく、お金もない状態で、基本的に15~18歳で措置解除(行政責任による養育費用負担の打ち切り)されます。つまり、このことが、①貧困層を自動的に形成し、②フリーターに代表される定職のなさ・ホームレス化、③福祉関係・大工やパチンコ店の住み込みといった職業の固定化、④無知ゆえの権利の剥奪や未保障、⑤例えば「孤児・可哀想な子」という否定的な先入観といった「児童養護施設経験者の社会的排除状態」が社会問題になっています。

そこで私たちは、親と暮らせない子どもたちが措置解除後に自立生計できるよう、2007年から3つの支援をしています。それは、①学習支援:絵本・アニメ作りで子どもたちの自信を育て、アートセラピーにもなる「子どもデザイン教室」、②学資支援:企業や商品のキャラクターマークを子どもたちと創作し、その収益金の一部を子どもたちの学習資金にする「子どもデザインビジネス」、③養育支援:親と暮らせない子どもたちを養育里親として育てる「子どもサポートホーム」の3つです。

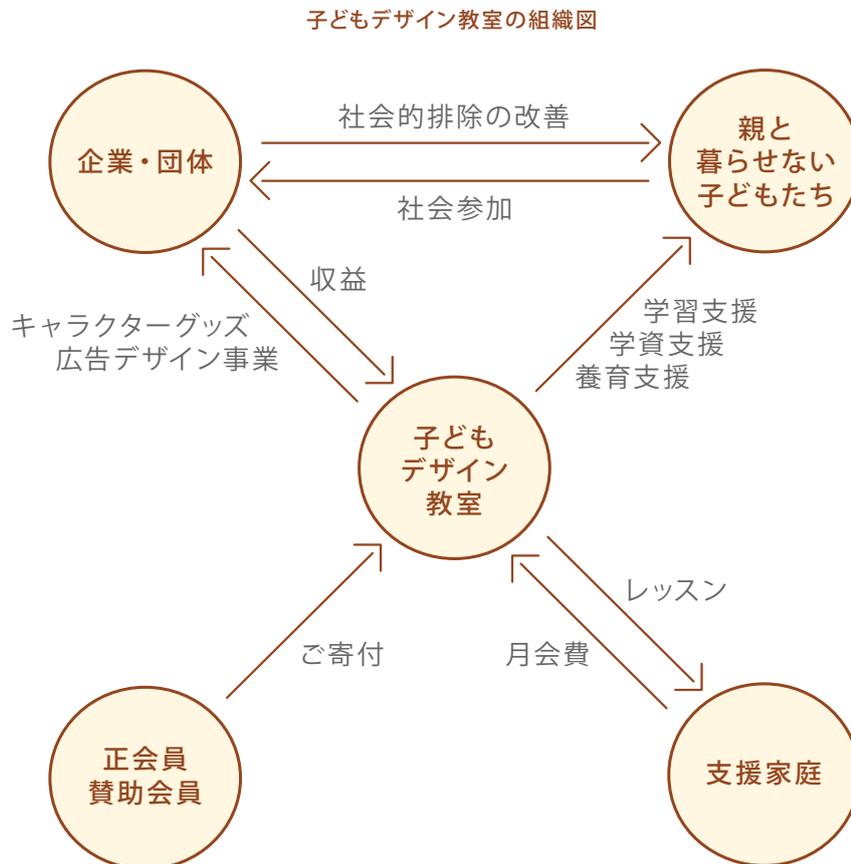
私たちはこの3つの取り組みのなかで、特に①の「子どもデザイン教室」に重点を置いています。その目的は、絵本・アニメ作りを通して子どもたちの学力やコンピュータ技能、創造力と自立心を育てることです。幼少期から措置解除後まで、一貫して子どもたちを見守り、子どもたちのビジョン(将来設計)を育てます。児童養護施設や里親委託では衣食住は保障してくれますが、措置解除後のビジョンまでは保障してくれません。そうした子育ての不足する部分を地域コミュニティの一員として補完することで、よりよい社会、未来をよりよい次世代に託そうと考えました。私たちの取り組みは恐らく世界で初めての試みです。

私たちは、親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に「私たちが変えられる」と信じています。

活動の概念図



親と暮らせない子どもたちの幸せを創造します。



前年度のお約束

前年、平成23年度の活動報告書の最後にお約束した平成24年度の課題は次の4点でした。

「学習×造形プログラム」の深化

学習支援の来期の課題は、普段のレッスンから得たアイデアを蓄積し、「学習×造形プログラム」を深化させることである。そこで来年度から教職免許をもつ正規スタッフを増員する。また大学生・研究所学生を育てながら、子どもたちが先生役をする「先生は君だ」レッスンを開発する。将来は大型プロジェクターによるレッスン、様々な生活用品・素材を分類・配置した「もののパレット」の設置をする。また断捨利・配置転換・作品保存など、環境や設備の充実を計る。

児童養護施設との連携

より多くの社会的養護が必要な子どもたちに「学習×造形プログラム」が提供できるようにする。このための広報資料を作成し、大阪府下の児童養護施設から子どもたちを招く。さらに大阪府商工労働部や、神戸市会議員の浦上忠史氏と協力する。こうして茨木市の児童養護施設・レバノンホームなど、大阪府・兵庫県下の児童養護施設へ赴き、出張デザイン教室を開催する。すでに提携関係にある聖家族の家に対しては、活動報告会を開催し、私たちの活動に理解を求め、児童養育のご指導を仰ぐ。

認定NPO法人の資格取得

受講会員を増やすために、①受講生の募集広告をする、②レッスンの開催時間枠を夜間に拡大する、③「子どものこと花そう会」を随時開催する、④おとなデザイン教室を充実するなどの工夫をする。こうして会員数を100名にし、認定NPO法人の資格を取得する。

社会との連携

これに加え、①近隣の子どもたちに無料学習会を開催をする、②報道機関に資料を送付し、広報活動をする、③助成金の申請をするなどの活動で社会との連携を計る。

教室の内容 子ども教室：月曜日～木曜日16時～18時、土曜日10時～12時・16時～18時開催
おとな教室：月曜日13時～15時、金曜日19時～20時開催

		開催日数	参加人数
4月	ゲーム作り完成 絵本紙芝居スタート	20日	35人
5月	絵本紙芝居 お料理教室 プロジェクタ導入	19日	36人
6月	絵本紙芝居コンピュータ化 ピカソを描こう みんなで一枚の絵を描こう 「どうしてうまくいかないんだろう」ポスター制作	20日	39人
7月	高校見学会へ 児童養護施設の子どもたちと1日レッスン	22日	38人
8月	プロジェクタの活用 ジオラマ工作 夏休み映画大会	18日	37人
9月	プロジェクタの活用 ジオラマ工作	21日	38人
10月	絵本作りスタート	23日	39人
11月	絵本作り	22日	41人
12月	絵本作り みんなで似顔絵スケッチ	19日	41人
1月	絵本作り iPadでお絵描き	18日	41人
2月	絵本コンピュータ化・完成	21日	41人
3月	絵本上映会 アニメ作りスタート	21日	40人
通年レッスン：中学生受験勉強会 土曜日・13時～15時開催		合計	244日 466人



教室の内容

- 4月は既存の童話を紙芝居にします。各曜日の子どもたちごとの共作です。これは聞く、読む、書く、話すの国語力を高めるレッスンで、子どもたちは活発に意見交換しながらたくさん枚数の紙芝居を描きました。
- 5月はコンピュータの作業が中心になりました。国語の勉強をしながら、ある曜日は自分たちで物語を変えながら文章を書きました。絵や文字をコンピュータに入力し、加工しながら完成度を高めました。
- 6月はコンピュータの作業を経て、紙芝居を完成させました。完成するとみんなでお披露目会です。その後、ピカソの模写から創造力を養うレッスン、ポスター「どうしてうまくいかないんだろう？」を制作した。
- 7月はポスター「どうしてうまくいかないんだろう？」の制作です。学校や毎日の中で、なぜかうまくいかないことを考え、ポスターにしました。自分の気持ちを表に出してみることで何らかの気づき、変化を期待しました。
- 8月は新しく導入した大型スクリーンで夏の風物詩の映像を見ました。そして、そこからインスピレーションをかきたて、夏の工作をはじめました。
- 9月は工作の続きです。大きな画面で水族館や花火、北極、大空、野生の生きもの……いろいろな映像を見て、そこから印象に残った映像を工作にします。すでにできあがった子は別のイメージでさらにもう一作作ってみました。前回の反省点を活かしてよりよい作品を作りました。
- 10月から絵本作りををはじめました。単語を集め、それがやがて文となり、絵となり、最後には自分だけの創作絵本に仕上げる……長く地道な努力が必要ですが、いろいろな自分と向き合い、最後には一つ大きくなった自分に出会ってもらおうと企画しました。
- 11月は絵本作りの続きです。常識にとらわれず、発想の柔らかさを育てたいと考えました。意外なストーリー展開、斬新な構図、驚きの色使い……見ている人がワクワクしたり、喜んだりするような絵本をめざして、子どもたちの才能を引き出すことを目的にしました。
- 12月も絵本作りの続きです。絵が描き上がった人は、コンピュータ作業に進みました。スキャンや画像修正、文字入力、配置の工程を通して、コンピュータの基本操作を身に付けてもらいました。12月中の完成をめざしましたが、予定が大幅に遅れました。
- 1月も引き続き絵本作りです。絵の進み具合に個人差があるため、調整が大変でした。1月末の完成をめざしましたが、さらに予定が大幅に遅れてしまいました。ただ、熱心に取り組んでいるものを無にする訳にもいかず、子どもたちの気持ちを尊重するようにしました。
- 2月は印刷と製本をして、絵本を完成させました。すでに絵本が出来上がった人は、出来ない人の作業の指導をしてもらいました。「教えること」は「学ぶこと」だと思います。先生役をすることで、知識や技能を深めてもらいました。
- 3月からは粘土での立体工作に取り組みました。自分だけのキャラクターを作って、最後はそれをコマ撮りのアニメにして、音楽と文字を入れて楽しい短編のアニメを制作します。

教室の総括

●レッスンの概要

本年度のレッスンは、子ども教室は月曜日～木曜日の16時～18時、土曜日の10時～12時と16時～18時、おとな教室は月曜日の13時～15時、金曜日の19時～20時に開催しました。また、中学生向け受験勉強会は土曜日の13時～15時に開催しました。年間の延べ開催日数は244日で、延べ参加人数は466人でした。この1年で児童養護施設3人・支援家庭9人・おとな3人が入会し、児童養護施設4人・支援家庭4人が退会しました。増減は児童養護施設－1人・支援家庭＋5人・おとな＋3人です。入会理由は「子どもが絵が好きだから」「気持ちが不安定な子どもの養育に適しているから」「遊びながら学ぶという考え方に共感したから」などでした。退会理由は児童養護施設が「中学生になるから」と里親宅へ委託変更、委託施設の変更、実家への帰宅で、支援家庭が「中学生になるから」でした。

●レッスンの方針

今期の課題は、遊びながら学ぶという「学習×造形プログラム」レッスンを深化させることとでした。そのため、アイデアを蓄積し、レッスンの体系化を計ろうとしました。レッスンは「聞く、読む、書く、話す」という国語力のレッスンからはじめ、季節のイベントを挟みながら、絵本作りへと変化させました。絵本作りは物語を紡ぐ過程で、体系立てて物事を考える経験をし、そのことが創造力や自立心に繋がることを期待しました。来期は絵本のキャラクターを主人公にアニメ作りに発展させる予定です。子どもたちの年齢や能力が違う中でそれぞれの課題を同時進行させることは大変難しいものでした。子どもたちとどう対面すべきかはスタッフがそれぞれ会得し、共有はできましたが、それを明文化し、体系立てることはできませんでした。

●スタッフの心構え

スタッフの心構えとして「子どもたちのために働く、そして自分を豊かにする」「誰かの幸せを考えると自分が幸せになれる」「目を動かす、声を聞く、話をする」といったことを話し合いました。レッスンは主に和田隆博と酒井優子、外部スタッフの永富実花が担当し、管理業務は和田隆博と和田青葉が担当しました。和田隆博が里親や子どもデザインビジネスで時間を費やすことが多くなったため、技能の共有や外部スタッフの育成といった将来のスタッフリングを考えました。しかし、大学生、インターンシップ、アルバイトなど、いずれも長期的に育成できませんでした。これは和田隆博の人望のなさか、要求が高すぎるのか、原因はよくわかりません。もう何年も抱えている課題だけに改善が求められます。ただ、総じて内向的で、子どもとうまくコミュニケーションがとれない、知識が豊富でないといった共通する課題がありました。

●子どもたちへの対応

本年度の中頃、子どもたちがイライラやストレスを爆発させたり、友達同士で言葉や態度でけんかをしたりする場面がありました。いずれも話し合うことで自然に解決しましたが、こうした場面でとっさにどう対応するのか、考えておく必要があります。その一つは、子どもたちと真正面からぶつからないことです。例えばそれは、まず大きく息を吸う、その行動の背景に思い

教室の総括

をはせるなどの工夫です。子どもたちはお客様であるという観点を忘れず、何かあったときは『どうしたの?』と聞くことが大切でした。子どもたちの多くは自信がなく、自分を表に出すことを怖がるため、レッスンでは乗り越えられる具体的な提案を一つするなどの工夫をしました。ほかにも、室内をリニューアルし、常に目にみえる「汚い」をなくすようにしました。その勉強にホスピタリティに定評のあり大阪市平野区の福祉施設・アトリエインカーブにお伺いしました。

●データの蓄積

アイデアの蓄積、レッスンの体系化といったデータ化はできていませんが、日々の子どもの様子は毎日データ化しています。こうした日々の積み重ねは、子どもたちの成長の記録、次の課題を見つける手がかりになります。ほかにも作品の撮影・整理を定期的に行っています。さらに、教室のレッスンの前後で子どもたちの気持ちがどのように変化するのか?を明星大学大学院 人文学研究科 教育学専攻通信課程の大学院生が1年間かけてデータ収集をしています。来年度、論文で発表する予定です。

教室以外の実績

●認定NPO法人

NPO法人「子どもデザイン教室」は認定NPO法人になるため、その資格取得をめざしています。「NPO法人」の私たちが「認定NPO法人」になると、賛助会員(寄付者)の所得税減税など様々な税制優遇が受けられるようになります。しかし、認定NPO法人の資格要件を満たすためには「2年間で3,000円以上の賛助会員(寄付者)が200世帯以上必要」というパブリックサポートテストを受けないといけません。3月期末の賛助会員数は150世帯・184名となり、あと50世帯でテストはクリアします。ここまでの道のりは大変困難なものでした。例えば、当初200人でいいと思われていた賛助会員数は、実は200世帯で、同一世帯は寄付者が何人いても1人と見なされることなどです。このため、さらに多くの賛助会員を集めなければなりませんでした。他にも「同一法人に所属する役員比率は1/3以下でないといけない」という規定があり「子どもデザイン教室」の場合、総役員数は5名で、その内、和田隆博と酒井優子は「綿屋デザインファクトリー」という同一企業に所属しているため、役員比率は1/2.5になってしまいます。そこで9月、新たに正会員の安田信太郎氏を役員にし、同一法人の役員比率を1/3にしました。こうした条件をクリアしつつ、認定NPO法人の資格取得をめざしています。

●賛助会員募集

私たちの活動を支えてくださっているのは賛助会員の方々です。4月期初、賛助会員の数は11人でしたが、3月期末の賛助会員は150世帯・184人にまで増えました。これも一重に皆様のお力添えの賜物です。特にアトリエインカーブの今中博之様、日本情報技術取引所の佐々木道正様、和歌山県の安田信太郎様には一方ならぬお世話になりました。この場を借りしてお礼申し上げます。

教室以外の実績

●セミナー・懇親会「子どものこと花そう会」開催

賛助会員を対象に下記の日程でセミナー・懇親会「子どものこと花そう会」を開催しました。各パーティは子どもたち中心の楽しいイベントになりました。活動報告会・お話し会は参加人数は少ないものの、貴重なご意見を頂き、また熱心な討論ができました。本年度は賛助会員限定とせず、一般からも参加者を募集し、さらに活動の輪を広げていきます。

4月7日Ⓐ・14日Ⓐ **お花見パーティ** 参加人数：子ども26人+おとな21人

内容：ランチパーティと野外・屋内ゲーム大会

7月22日Ⓐ **活動報告会「子どものこと花そう会」** 参加人数：13人

内容：活動報告・児童養護問題・アニメ上映会・体験レッスン

9月22日Ⓐ **映画「隣(とな)る人」上映会** 参加人数：230人(下記参照)

内容：活動報告・映画上映会

12月8日Ⓐ・15日Ⓐ **クリスマスパーティ** 参加人数：子ども53人+おとな15人

内容：ランチパーティとゲーム大会・クリスマスプレゼント

2月24日Ⓐ **お話し会「子どもは愛されたいと願う生きもの」** 参加人数：12人

内容：和田隆博の養育のお話しとワールドカフェ形式の話し合い

4月6日Ⓐ・13日Ⓐ **お花見パーティ** 参加人数：子ども45人+おとな18人

内容：ランチパーティと野外・屋内ゲーム大会

●映画「隣(とな)る人」上映会

本年度の最も大きなイベントとなった映画「隣(とな)る人」上映会を9月22日(土)、阿倍野区民センター・小ホールで開催しました。この映画は、ある児童養護施設の日常を淡々と描いた音楽も字幕もないドキュメンタリー映画でした。4月の配給会社との交渉からはじまり、上映会場との折衝など長い時間を要しましたが、一般映画会なみの参加費を頂いたにも関わらず、参加人数は230人になり、また「児童養護問題を知る上で貴重な機会になった」とご好評でした。ただ、運営に不慣れなため、入場に手間取り、長らくお待たせしたこと、また10分遅れの上映となったことなど、皆様に大変なご迷惑をおかけしました。この場を借りて改めてお詫び申し上げます。

●「NEWS子どもデザイン教室」発行

賛助会員向けに子どもデザイン教室の活動をお知らせする会報紙「NEWS子どもデザイン教室(A3両面2つ折り)」を6月・10月・2月・4月に発行しました。経費削減のため、メール送信が可能な方には電子メールで配信しました。

●コンペ応募

子どもたちの作品や私たちの活動を客観的に評価してもらおうと、4月にJX童話賞(JXホールディングス主催)、イラストコンクールのチョイス(玄光社主催)・絵本大賞(文芸社主催)、11月に論文コンクールの数能賞(児童健全育成財団主催)、12月に先進的なコミュニティビジ

教室以外の実績

ネス・市民活動をコンテストするCB・CSOアワード2012(大阪商工会議所・大阪NPOセンター主催)に応募しました。このなかでCB・CSOアワード2012の審査員特別賞を受賞しました。

●助成金応募

1月に近畿ろうきんNPOアワード(近畿労働金庫)・積水ハウスマッチングプログラム(積水ハウス)、4月によみうり子育て応援団大賞(読売新聞)、7月に全労済助成金(全労済)、9月に社会福祉事業研究開発基金助成金(三井住友信託銀行)・日本財団助成金(日本財団)、11月にJT NPO助成事業(日本たばこ産業)・年賀寄付金配分団体募集(郵便事業会社)、12月にファーマーリンクジャパン(タイガーマスク基金)、3月に親切会寄附金(日立製作所 親切会)に申請しました。その結果、全労済様から285,000円、ファーマーリンクジャパン様からは300,000円、日立製作所 親切会様からは50,000円の助成をお受けしました。

●イベント参加

6月8日(金)・15日(金)に里親広報イベントのあさひあったかきち(今市商店街・大阪市こども相談センター主催)、9月にフリーマーケットのにんやかまつり(南田辺商店街主催)、11月11日(日)に児童養護施設の常照園バザー(吹田市江坂・大阪西本願寺主催)、11月26日(日)～12月6日(木)にJAGDA大阪地区会員展のBODY WORK7展(ペーパーボイス大阪・日本グラフィックデザイナー協会主催)、2月1日(金)に居場所のない子どもたちフォーラム(大阪弁護士会館・大阪弁護士会主催)に参加しました。

●講義

12月6日(木)に関西大学大学院 心理学研究科でゲスト講師として講義をさせていただきました。

●室内のリニューアル

前年度の計画として断捨利、配置転換、作品保存など、環境や設備の充実を計ることを考えました。そこで6月から室内のリニューアルにとりかかりました。

●設備の充実

大型プロジェクタによるレッスンを実施するため、10月にプロジェクタ・100インチ大型スクリーン・書画カメラを購入しました。また、絵本を60冊、JAGDA年鑑、イラストレーションファイルなどのデザイン関連書籍を購入しました。これらは全労済様の助成金で購入することができました。来期は一眼レフ動画カメラ・フォントなどを購入する予定です。

●寄付・ご支援

11月に前田泰司様と橋本明希彦より大量の画用紙、大阪市ボランティア市民活動センター様より画材のご寄付を頂きました。1月には寺西化学工業より大量の画材、佐々木道正様より粘土・色えんぴつのご寄付を頂きました。2月にはお好み焼きレストランチェーン店の風の街様より児童養護施設の子どもたちとお食事のご招待を頂きました。

教室以外の実績

●広報活動

8月に念願のホームページのリニューアルを行いました。新しいホームページはワードプレスというブログ型ホームページです。検索性と利便性に優れた最新型のホームページで、たくさんのお問い合わせが頂けるようになりました。

9月と11月に受講生募集の新聞折込チラシ(B4両面・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・産経新聞、近隣地区に各3,000部)を配付しました。チラシを配付した場合、反応があるのは平均して6ヵ月以降です。徐々に参加の輪が広がることを期待しています。

●プレスリリース

今期の大きな動きとして新聞・テレビ・ラジオなどのマスコミ各社の取材を受けたことでした。こうしたパブリシティ効果で認知度が高まり、子どもたちへの利益に繋げるようにしていきたいです。しかし一方で、プライバシーの問題、出演児童への偏見、子どもの関心が利益目的になる、一面的で少なからず意図しない部分が放映されるなどの課題があることがわかりました。

10月 プレスリリース送付

10月12日(金) 日本経済新聞 大阪版夕刊、

11月21日(水) NHK総合テレビ 関西地区「ニューステラス関西」

11月30日(金) 産経関西

12月14日(金) NHK総合テレビ 全国放送「お元気ですか日本列島」

12月20日(木) 朝日新聞 大阪版朝刊

1月29日(火) ラジオ関西

3月4日(月) 日本経済新聞 大阪版夕刊

3月22日(金) ラジオ京都

1月 NHK総合テレビ取材

●他団体との提携

児童養護施設経験者の当事者団体であるCVV様(Children's Views and Voices)と連携し、セミナーへの参加、児童養護施設の子どもたちを集めた1日レッスンなどを共同開催しました。今後はソフトウェアハウスの業界団体である認定NPO法人日本情報技術取引所様、障がい者支援をする飲食業界団体であるNPO法人エッセンス様との協働を計ります。

●今期できなかったこと

①大学生・インターンシップ・アルバイトを育て、点を線に、線を面にしようとしたのですが、資金不足から明確な雇用計画が示せず、結局1人の新人も育てることができませんでした。

②子どもたちが先生役をする「先生は君だレッスン」をする予定でしたが、紙芝居・絵本・アニメなどの主要レッスンに時間を取られ、ほとんど開催できませんでした。

教室以外の実績

③様々な生活用品・素材を分類・配置した「もののパレット」の設置を計画しましたが、リニューアルの結果、設置場所がとれなくなったこと、また、整理整頓に多大な時間を要し、大変非効率であることから中止しました。

④10月に児童養護施設に子どもデザイン教室への参加を呼びかけましたが、まったくの無反応でした。同じことを一般家庭に呼びかけると、恐らく大変な反響になります。このことを考えると、児童養護施設のハードルの高さを感じました。そのハードルの向こうには様々な才能を内包した子どもたちがたくさんいます。こうした子どもたちを発掘し、支援するのはおとなの役目です。これからも根気よくネットワークを広げ、認知度を高めるとともに、子どもデザイン教室の効能を立証し、参加意欲を促進していかないとはいけません。

⑤子どもたちと作った絵本「ライオバケはいつもひとりぼっち」を発行する予定でしたが、まったく作業時間がなく、来年度へ企画を繰り越しました。

来期の方針

- ①大阪府下児童養護施設向け「子ども絵本教室」の開催
- ②「遊ぶ×学ぶレッスン」のカリキュラム化
- ③コモンセンス・ペアレンディング(良識的な子育て)技術の取得
- ④賛助会員(寄付者)・支援家庭(一般受講生)の募集
- ⑤講演会の開催
- ⑥国内外のコンペティションへの応募
- ⑦認定NPO法人の資格取得準備
- ⑧関連NPO法人との連携

私たちは児童養護問題に取り組みはじめたばかりですが、私たちは「小さいけれど豊かな共同体(家族)を形成しよう」と常に考えています。現在、私たちの課題は「子どもデザイン教室」のサービスが近隣の児童養護施設に偏り、支援の輪が他の親と暮らせない子どもたちに広がらない点です。そのため、①本年度より大阪府下の児童養護施設(里親委託・母子支援施設を含む)の子どもたちを対象に「子ども絵本教室」を月1回・年12回開催することにしました。2007年から考えていた夢がようやく実現します。現在、広報活動をしています。予想通り参加者はあまり多くありません。原因は交通の便にあるようです。私たちの活動は長期的な子どもたちとの関わりに長所があるため、出張形式による「子ども絵本教室」ではイベント性が強く、子どもたちとの関わりが薄い点に問題があります。しかし「子どもデザイン教室」の活動は、子どもたちに自信を与え、子どもたちに楽しさとセラピー効果をもたらします。そこで今後は、郵送やインターネットを活用し、日本全国の児童養護施設の子どもたちを対象にした企画を考えていきます。

来期の方針

また、②私たちの基幹活動である「子どもデザイン教室」は、イラスト・ゲーム・絵本・アニメと遊びの内容と、そのなかに内包させる基礎学習の内容を明確にし、「遊ぶ×学ぶレッスン」としてより実用的にカリキュラム化していきます。さらに、③良好な親子関係を築くための技術であるコモンセンス・ペアレンディング(良識的な子育て方法)をスタッフで共有し、子どもたちとのストレスのない対話技術をマスターしていきます。

こうした活動を進めるためには、④より多くの賛助会員(寄付者)や支援家庭(一般受講生)の参加が望まれます。そのためには、インターネットや折込チラシを活用し、募集活動をしていきます。ほかにも、⑤講演会の開催による社会的な認知度の向上、⑥「ポローニャ国際絵本コンテスト」など、国内外のコンペティションへの応募による社会的な評価の獲得、⑦認定NPO法人の資格取得の準備、⑧関連NPO法人との連携を進めていきます。

長期の方針

①「通信子ども絵本教室」「インターネット子ども絵本教室」の企画

②子どもたちとプロが共作する陶芸・油彩・版画・絵本作品の共作

この章の最後に、長期的な活動方針について述べます。将来の課題として、①全国の児童養護施設向けに通信講座のように教材を送って絵本を制作してもらう「通信子ども絵本教室」、スカイプを利用して同様のレッスンを開催する「インターネット子ども絵本教室」開設の企画をスタートさせます。「子どもデザイン教室」のカリキュラムを全国の児童養護施設で暮らす子どもたちに体験してもらい、自信をもち、楽しさとセラピー効果を実感してもらう計画です。

また、②子どもたちとプロのデザイナー・アーティスト・作家・芸能人が陶芸・油彩・版画・絵本作品を共作し、社会に発表していきます。こうした共創作品を通して、親と暮らせない子どもたちの虐待や育児放棄、貧困や未保障といった問題を社会に発信し、一般の人々の関心と共感の輪を広げていきます。その理由は、児童養護施設経験者らが貧困や未保障ゆえに社会的に排除される傾向にあるため、一般の人々が親と暮らせない子どもたちの様々な問題に気づかないからです。

私たちは、こうしたユニークで先駆的な広報活動を通して、親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に変えていきます。

①「通信子ども絵本教室」「インターネット子ども絵本教室」の企画

②子どもたちとプロが共作する陶芸・油彩・版画・絵本作品の共作

前年度のお約束

前年、平成23年度の活動報告書の最後にお約束した平成24年度の課題は次の3点でした。

4-2-A 商品化の深化

資金支援の今後は3年間かけて商品をさらに深化させる。“福祉だから”ではなく、商品そのものの価値でないと商品は売れない。そのため、①児童養護施設の子どもたちと考えた絵本「ライオバケはいつもひとりぼっち」を出版する。児童養護問題を当事者である子どもたちの視点から絵本という形で社会に訴える、②コンピュータ制作ではなく、版画やシルクスクリーンなどのアナログ製作で、商品価値を高める、③支援法人との共同で商品を開発するといった工夫が必要である。また、こうした商品を「こどキャラ」ポストカード・ポスターにし、ネットショップで販売する。将来は大阪府中央区に開設するセレクトショップで販売する。さらに商品価値を保護するために「こどキャラ」の名称を商標登録する。

4-2-B 法人営業の推進

資金支援の推進力は法人への営業である。来期は大阪市立大学産学連携本部・天野フーズ・フェリシモ・サラヤ・ユニクロから営業を開始する。こうした営業は摂津金属工業所や櫻製油所の協力を仰ぎながら進める。また管理業務の効率化・節税対策として「綿屋デザインファクトリー」を「子どもデザイン教室」の広告・デザイン事業部にする。同社は2007年から資金支援母体である広告・デザイン会社である。同社が行ってきた「動画広告」「ブログ型ホームページ」の営業は引き続き「子どもデザイン教室」の広告・デザイン事業部として継続する。

4-2-C 社会への広報活動

資金支援を安定させるために社会的な認知を高めたい。そこでイラストレーターの登竜門である紙上公募展「チョイス」に応募する。また子どもたちのアニメ作品をNHK・Eテレ（旧教育テレビ）の投稿番組「デジスタティーンズ」に応募する。さらに虐待防止ポスターを製作し、国際コンペに応募する。他にもホームページのリニューアルをする。

ビジネスの内容

●面談企業・団体

4月	風の街 摂津金属工業所 西川リビング 大西商店 大阪市立大学 天野フーズ	9月	イトーヨーカドー 高島屋 パルコープ
5月	日本情報技術取引所	10月	大阪勧業展に出展 伊藤忠食品
8月	大阪デジタルコンテンツ ビジネス創出協議会 関西ネットワークシステム	11月	寺西化学
9月	大阪商工会議所 発掘市に参加	12月	三栄食品
		3月	ワンポイント 山久 サニー法務事務所 大阪ガス



●実現しなかった面談企業・団体

サラヤ・フェリシモ・日本化線・大阪産業創造館・にちにち

●受注実績

4月	風の街	超激辛ソース・とんがらりん発売
12月	風の街	きゃべつまん採用
4月	摂津金属工業所	モチベーションアップポスター採用
5月	日本情報技術取引所	はっPーブレイン採用
3月	ワンポイント 山久 サニー法務事務所 大阪ガス	制作中 ぽこやまさん採用 おひさまサニー採用 にじいろえのぐ採用・他2点制作中



ビジネスの総括

●ビジネスの概要

「子どもデザインビジネス」とは、親と暮らせない子どもたちと創作したキャラクター「こどキャラ」を企業・団体のマーケティングや製品戦略にご使用頂くことで、様々な社会貢献を実現していこうというものです。具体的には、①愛された経験の少ない親と暮らせない子どもたちが自信をもつ、②企業・団体にとって商品自体が社会貢献事業になる、③私たちにとって商品自体が児童養護問題の広報媒体となる、④その結果、社会が児童養護問題に関心をもち、支援者が増える、⑤さらに多くの親と暮らせない子どもたちに支援活動ができる、などです。

価格は注文時にオリジナルキャラクターを制作する場合、①独占使用料120,000円(税別)、②共同使用料(レンタル写真のイメージ)60,000円(税別)です。また、すでに制作されたキャラクターを使用する場合は、③共同使用料30,000円(税別)です。ただし、共同使用の場合は事前に第三者が同じキャラクターを使用している、もしくは事後に第三者が同じキャラクターを使用する可能性があります。

キャラクターデザインは児童養護施設の子どもたちと私たちが創作するものです。キャラクターの使用料は、子どもたちの学習資金と「子どもデザイン教室」の運営資金に充当します。さらに「こどキャラ」のキャラクターがついた商品が販売されるごとに、その収益金の一部を子どもたちの銀行口座に直接入金する寄付システムも実施しています。設定金額は各企業・団体に一任しています。これは日本に4,338,000社ある企業のどこか1社が、日本に47,000人いる親と暮らせない子どもの誰か1人を直接支援するという画期的な支援方法です。

●ビジネスの方針

本年度の「子どもデザインビジネス」の方針は、①品質の向上に取り組む、②企業・団体への営業活動をする、③マスコミへの広報活動をする、の3点でした。①の品質の向上は、子どもたちの原案を私たちプロのデザイナーが最終加工するため、安定した商品を提供することができました。ただ、今後はより大きな活動資金を得るために、例えば、異業種のプロフェッショナルと造形・芸術作品を共作するなど、独創的な付加価値を作り出すことが必要です。次に、②企業・団体への営業活動は前述の通り実施しましたが、人員不足から各企業への営業活動がおろそかになりました。もっと営業のプロフェッショナルとしての自覚をもった活動をすべきでした。③は「第1章・子どもデザイン教室の活動」でも述べましたが、たくさんのマスコミ各社から取材があり、想像以上に大きな反響を頂きました。

●スタッフの心構え

本年度のミッションとして、事業を数値化し、実績を残すことを考えました。そのためフェイスブックやホームページを活用する、セミナーなどでたくさんの人に会うなど、共感の輪を広げることを心がけました。この営業活動は、和田隆博と和田青葉が担当しました。しかし、日々の業務が忙しく、思うように営業活動をすることができませんでした。作業方法の合理化は来年度の課題です。

ビジネス以外の実績

●ホームページ

8月にホームページを全面的にリニューアルし、10月に「子どもデザイン教室」の受講生申し込みサイト、企業×子どもたちのコラボ商品（先の「子どもキャラクタービジネス」）の申し込みサイト、「こどキャラ」ブランドのTシャツ・トートバッグのネットショッピングサイト、ブラザー・ジョルダン社様と提携したヨーロッパの木製玩具のネットショッピングサイトを開設しました。このホームページはワードプレスというブログ型のホームページでスマートフォンからも更新ができ、検索性の高いホームページです。その効果もあって、ホームページ経由でのお問い合わせもたいへん多くなっています。今後、さらに商品ページの増加や改善をしていきます。

●ビジネスフォーム

3月～5月に「こどキャラ」ポストカード・缶バッジを制作しました。12月には包装紙・シールの制作を進めましたが、経費がかさみ採算が合わないので中止しました。

●商標登録

ブランドの商標を保護するために7月から「こどキャラ」の商標登録を開始しました。10月に無事「こどキャラ」ブランドの商標登録を完了しました。

●広告・デザイン事業

活動資金を得るために8月から奈良県下のNPO法人に広告アドバイスのお仕事をしました。9月にはNPO法人限定でデザインの無料相談をしました。4月に大阪市民共済会様から、12月にWANA関西様ほか3社からパンフレットなど印刷物のお仕事を受注しました。

来期の方針

- ①「こどキャラ」商品の充実
- ②営業活動の強化
- ③知名度の向上
- ④技能の移転・共有
- ⑤業務の移管
- ⑥作業の効率化
- ⑦労働環境の改善

NPO法人は社会的問題を解決するのが目的のため、従業員はボランティアや低所得が当たり前と思われるがちです。しかし、それでは継続的な活動ができず、結局は目的が達成でないまま終わってしまいがちです。そこで、本年度の方針は経営基盤を確立し、労働環境を改善することです。そこでまず、①「こどキャラ」ブランドの見本品や油彩画による額装品、Tシャツなどのグッズ類の品揃えを充実します。そして、②営業スタッフを増強し、営業活動を強化します。

来期の方針

私たちのミッションは、親と暮らせない子どもたちを幸せにすることです。そのために、里親の普及を企業とタイアップして全国各地に広めるなど、様々な方法を考案していきます。さらに、③「東京ギフトショー2013」「大阪勤業展2013」などの企業商談見本市への出展、フェイスブックなどSNSの活用、講演会の開催、国内外のコンテストへの応募などの情報発信活動を通して「子どもデザインビジネス」の知名度を高めていきます。その結果、企業・商品のキャラクターマークの受注、広告・広報物のイラストの受注などをめざしていきます。

また、④現スタッフの和田隆博や酒井優子の技能を新しいスタッフに移転します。そこで、毎週1回コンピュータ技能や一般常識・知識教養を共有するレクチャータイムを開催します。あわせて、⑤「子どもデザイン教室」の広告デザイン事業部である「綿屋デザインファクトリー」のホームページや印刷物の制作業務は「子どもデザインビジネス」に移管させ「綿屋デザインファクトリー」の営業は来年度中に終了します。ほかにも、⑥時間を決めて作業をする、校正・連絡システムを確立するなど、作業の効率化を計ります。

こうして経営基盤を確立し、⑦これまで曖昧にしてきた労働体制を改め、労働基準法にのっとった雇用環境を実現します。次世代が安心して働ける環境作りも私たちの命題です。

長期の方針

- ①子どもたちとプロが共作する陶芸・油彩・版画・絵本作品を販売する。
- ②これからの児童養護のあり方を提言し、出版する。
- ③児童養護施設や里親委託経験者の就労拠点(サークル)にする。

グローバル社会の影響か、何とも窮屈な世の中になってきました。その代表例がブラック企業による若者たちの搾取ではないでしょうか。社会的マイノリティである親と暮らせない子どもたちがこうした社会に飲み込まれない一つの方法は「血縁を越えた家族経営」だと思えます。私たちのビジョンの一つは「小さいけれど、豊かな共同体(家族)をつくること」です。

そこで、私たちは、①子どもたちとプロのデザイナー・アーティスト・作家・芸能人が陶芸・油彩・版画・絵本作品を共作し、出版や販売をする。そして、継続的な収益源を確保し、②私たちの活動と児童養護問題のあり方を広く社会に広めるために、活動を明文化し、出版物として発行します。私たちのユニークな取り組みと児童養護問題の解決策を提言することで、よりよい社会、よりよい明日の実現を、未来の子どもたちに託していきます。

最後に、③「子どもデザイン教室」「子どもデザインビジネス」を児童養護施設や里親委託経験者の就労拠点(サークル)にします。そのために今後5年をかけて、コンピュータ技能や一般常識、知識・教養を次世代を担う子どもたちにも移行していきます。そして、現スタッフの和田隆博や酒井優子がいなくても利益が上がるシステムを作り、永続的な事業を次世代に継承していきます。

前年度のお約束

前年、平成23年度の活動報告書の最後にお約束した平成24年度の課題は次の3点でした。

4-3-A 小規模住居型児童養護施設の開設までの準備

養育支援の今後の課題は養育経験の蓄積である。小規模住居型児童養護施設を開設するにあたって、①家族の協力、②資金計画、③申請・認可、④スタッフの雇用・育成、⑤家屋の改造、⑥関係機関との連携、⑦税務、⑧研修など懸案事項は多岐にわたる。また保護児童の受け入れ後の養育方針の策定と実施計画、さらに措置解除後の自立支援まで計画しておかなければならない。

4-3-B 配置転換の検討

小規模住居型児童養護施設は代表・和田隆博の自宅（大阪市東住吉区）で開設する。保護児童を2人・4人・6人と増やしつつ、また2人の養育者（保育士・社会福祉司など）も育てていくのが合理的である。「子どもデザイン教室」との連携も欠かせないので、教室の2階部分はパブリックスペースにする。関係機関の許可も受けなければいけないが、来年度中には常時2人の保護児童の養育をはじめたい。

4-3-C 措置解除後の養育支援

本年度3月、中学3年生の男子が、高校受験をしなかったことから措置解除（行政責任による養育費用負担の解除で、自活を余儀なくされる）となり、児童養護施設をでることになった。経験も、知識も、学力も、生活力もない15歳の少年が1人で生きていくことは相当な困難が予想される。児童養護施設を出たことを機会にこの子どもとの縁は切れてしまうかもしれない。こうした子どもを保護・育成するのが、私たちの使命である。独立後の支援を約束したが、その連絡と判断は子どもに委ねられている。

サポートの内容

●委託児童

4月・5月 Nちゃん(13歳)・Gくん(11歳)

7月 Tくん(11歳)

8月 Rくん(3歳)・Tくん(2歳)

11月・12月・1月 Yくん(3歳)

2月・3月 Kaちゃん(3歳)・Koちゃん(1歳)

活動の詳細はプライバシーの関係から非公開とさせていただきます。

サポートの総括

お預かりしていた里子さんがお家に帰ると、家の中は静まりかえり、なんとも寂しい気分になります。しかし一方で、お預かりしていた期間を振り返ると、里子さんとの暮らしの中でたくさん勉強をしたことがよくわかります。それは実子の子育てでは気づかなかった「子育てのミソ」のようなものです。それは、①命の危険以外、怒ってもほとんど意味がない。②1m以内で話をすると思いは通じる。③愛情をきちんと注ぐと、相手もきちんと愛してくれる。④この対話と愛情の繰り返しで離れられない絆が形成されていく。⑤従って、血縁がなくても親になれる。ということです。この報告書では特に、①の「命の危険以外、怒ってもほとんど意味がない」をご紹介します。

私は我が子を頭ごなしに怒ったことが何度もあります。例えば「早くしなさい!」とか。しかし、その早くしないといけない時間は、大人の勝手な都合です。子どもには子どもの時間があり、大人はそのことをほとんど考えていません。子どもは未熟だと思っていたら大きな間違いです。子どもを観察していると、よく分かりますが、子どもの行動にはすべて意味があり、無駄な動きがありません。同じ本を何度も何度も読んでということにも意味があります。1歳の子どもは1歳で完成しているにつくづく感心します。「早くしなさい!」というけれど、例えば、学校を卒業して1年間遊んだとしても、30年も経てば50歳か51歳の違いでしかありません。そう思うと、急ぐ必要などほとんどありません。この高い木の上から遠くを見る感覚でいると、苦勞の多い子育てもなかなか快適なものになります。

里親をはじめて1年以上になりました。最初の頃は自分のことで精一杯で里子さんの気持ちを考える余裕がありませんでした。しかし、最近ふと、『この子たちは今どんな気持ちなんだろう?』と考えるようになりました。そのことについても少し書きます。

里子さんは里親宅に引き取られた瞬間から、それまでの「あるべきはずの暮らし」を失います。子どもに責任はなく、まさに青天の霹靂です。そこから里親宅での「まったく異なる文化の

サポートの総括

暮らし」がはじまります。一方、里親はそれまでの暮らしぶりが「まったく分からない子どもとの暮らし」を突然はじめないといけません。これで人間関係がうまくいくはずがありません。実子との関係がうまくいくのは、共有できる歴史、文化、風景があるからです。里親と里子が良好な関係を築くには、この「共有できる何か」を見つけることが大切です。好きな食べ物でも遊びでも、子どもが「安心できる何か」を探してあげることです。幸い私は絵がかけるので、アンパンマンなどを描いてあげると、子どもとの距離はグッと縮まります。

ところで、問題とは当事者がそれを問題と捉えるから問題になります。もし、当事者が問題にまったく無関心なら問題は問題になりません。子どもが何か問題を起こした場合、そこには必ず何らかの背景があり、そのほとんどが「本人のそれまでの環境との差違」に原因があります。例えば、里子がじんわりと床に水をこぼしたとしても、その問題と思われる行動の背景、赤の他人の世話にならなければならない「子どもにとっての理不尽さ」に思いを馳せると、問題は問題でなくなります。私はまだまだ駆け出しの里親ですが、里親さんの中には里子さんとの「今」にばかり目を向けて、里子さんのこれまでの暮らしぶりや、里子さんの「本来あるべきはずの暮らし」に目が向いていない場合があると聞きます。

里親に限った話ではありませんが、子どもの「できないことを指摘する」ことは誰にでもできます。でも、子どもの「できることを認める」ことは案外難しいものです。これは関係が近いとなおさらで、私は子どもの「できることを見つける専門家」になりたいと思っています。

(代表理事 和田隆博)

来期の方針

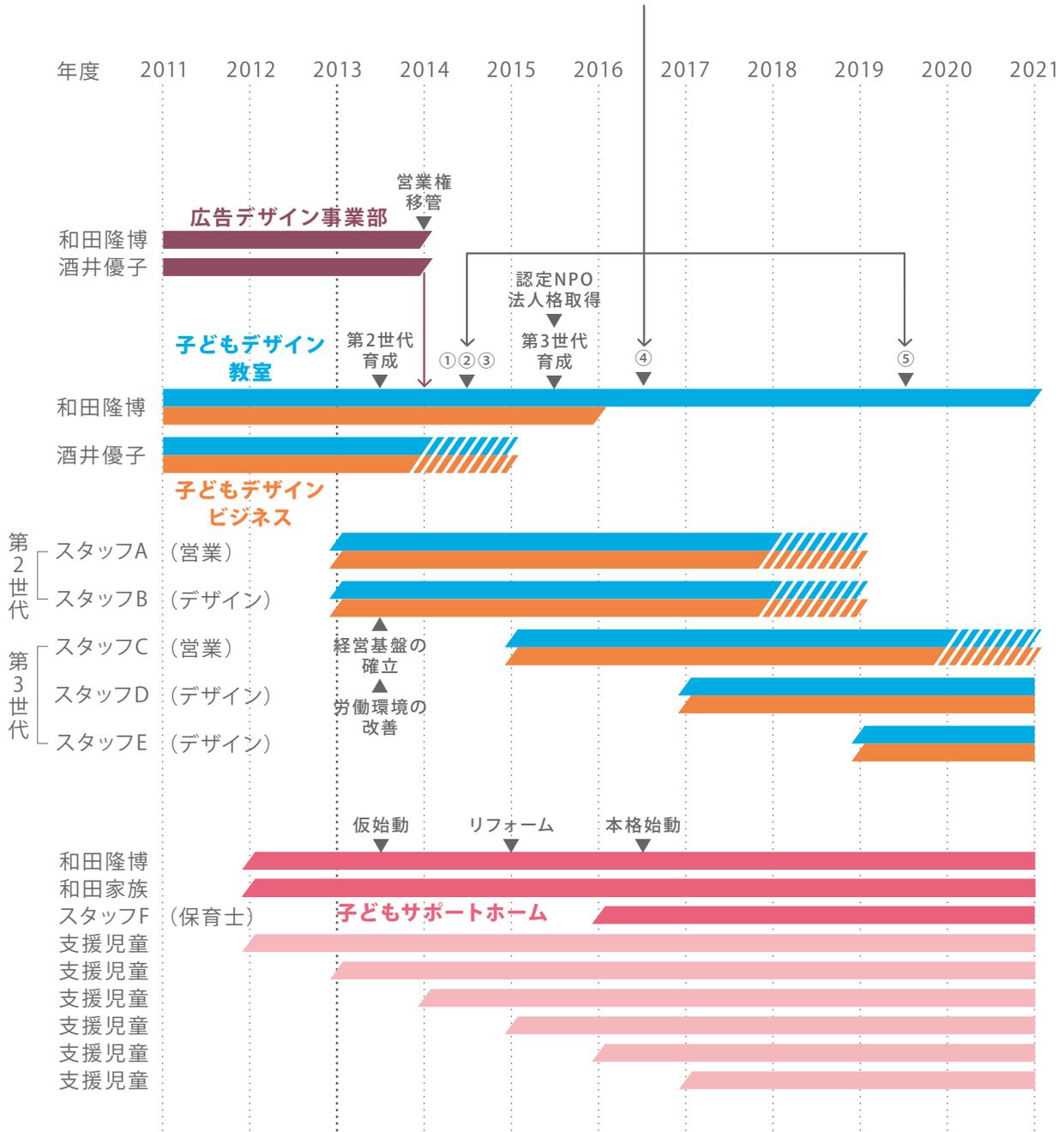
私が養育里親をはじめて2年目になります。ビギナー里親の困難さは、それまでまったく違う文化で暮らしてきた里親と里子が、一つ屋根の下で突然家族をはじめなければいけない点です。そこには、小さいながら難解な問題がいくつも発生します。しかし、里親の文化がしみこんだ我が家の何をどう工夫しても、里子にとってその家は「アウェイ」です。このどうにもならない問題を解決するために、里子にとっての「ホーム」が必要だとこの1年間ずっと考えてきました。そこで、我が家の近くに小さなお家を借り、そこから里子と私たちとのささやかな暮らしをはじめます。

私たちの最終目的は里親・里子のファミリーホーム「子どもサポートホーム(小規模住居型児童養育事業)」を2016年に開設することです。それまでは現状のまま、最大4人の親と暮らせない子どもたちを養育里親として育てていきます。この春、私たちは小さいながら夢の端緒につきました。私たちのささやかな挑戦にどうぞご期待ください。(代表理事 和田隆博)

長期の方針とまとめ

福祉×ビジネスで「新しい公共」を創造します。

- ①「通信子ども絵本教室」「インターネット子ども絵本教室」の企画
- ②子どもたちとプロが共作する陶芸・油彩・版画・絵本作品の共作
- ③子どもたちとプロが共作する陶芸・油彩・版画・絵本作品を販売する。
- ④これからの児童養護のあり方を提言し、出版する。
- ⑤児童養護施設や里親委託経験者の就労拠点(サークル)にする。



自分の人生が設計できるデザイナー

お話しができない子ども、自尊心の形成とともに保守的になる子ども、まったく創作意欲のなかった子どもの突然の変化、お絵描きに突出した集中力を発揮する子ども、さらに、苛立つ子どものフォロー、人間関係や自分の背景に苦しむ子ども、そして、児童養護施設の子どもたちとのお別れ……この1年間、たくさんの子どもと様々な葛藤を繰り返してきました。よく『なぜ、子どもデザイン教室ををするのですか?』と聞かれます。理由がありすぎていつも答えに困るのですが、一つあげるとすれば、それは『子どもの可能性が好きだから』です。

ここ10年で社会は大きく変化しました。グローバル化、少子高齢化、環境問題、規制緩和、電力不足といった様々な問題が私たちの日常と深く関わっています。しかし、学校では相変わらず何十年も前と同じ授業をしていますし、家庭でも『いい学校に、いい会社に』と既成概念を打破できずにいます。私は『いい学校、いい会社の先に何があるのだろうか?』と思っています。

コンピュータとインターネットの発達とともに、情報が瞬間に世界を行き交う時代になりました。それは、誰もが簡単にデザインができるデザインの時代でもあります。デザインとは見た目の美しさやかっこよさだけではなく、人や社会に便益をもたらす企画・設計力のことです。このデザインという普遍的な技術力＝論理思考を小さい頃から会得しておけば、日本のみならず世界の様々な舞台で生きていけるデザイン思考のできる人になれると思います。そこで私は、子どもたちを「自分の人生が設計できるデザイナー」に育てたいと考えています。そして、この難解な現代社会を軽やかに駆け抜けていってほしいと願っています。

この報告書の最後に児童養護施設で暮らすAちゃん(小6)の卒業文集を転記します。この文集を見せてもらったとき、『この仕事をしてよかった』と心から思いました。すべての子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会になるよう、これからも力を尽くしたいと思いません。最後までお読み頂き、本当にありがとうございました。(代表理事 和田隆博)

『私の夢は、まんが家になることだ。私は最初は漫画ってどうやって描くのだろうと思っていた。実際にまんがを読み始め、小学校2年生で子どもデザイン教室に通い始めた。

デザイン教室にだんだん慣れてきて、絵本も描くようになった。絵本も最初はむずかしかったけれど、教室の先生がコツを教えてくれ、今ではかんたんに描けるようになった。これはきつと先生のおかげだと私はそう感じている。

そしていよいよ六年生に近づいたときに教室で思った。(今まで絵本をたくさん描いてきたのだし、今度はまんがを描いてみよう。)と。そうしてまんがを描くことを決意した。私は家でもいらぬ紙を使って簡単なまんがを描いた思い出もある。

私はこれから、将来のまんが家になるという夢に向けて何をしなければならないのかと考えた。一度私は、職業が色々で紹介されている本を見たことがあり、そこにはこう書いてあった。「まんが家は、知識が無いと書けない。」と。だから私はいろいろと努力をして知識をたくさんもってまんが家になりたい!!絶対になる!!まんが家!!』

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

		科 目	金 額				
経常収益の部	経常収益の部	1 受取会費	正会員受取会費	7,000	1,407,136		
			受講会員受取会費	1,400,136			
		2 事業収益	自主事業収益		1,840,033		
		3 受取助成金	全労済助成金	285,000	295,000		
			CB・CSOアワード	10,000			
	4 受取寄付金	受取寄付金		882,795			
	5 その他収入	受取利息	444	67,334			
		雑収入	66,890				
					経常収入合計	4,492,298	
	経常支出の部	1 事業費	人件費	人件費	0	その他経費計 2,421,564	
その他経費				仕入高	89,940		
			外注費	1,482,012			
			広告宣伝費	108,915			
			会議費	53,152			
			旅費交通費	23,160			
			通信費	9,040			
			消耗品費	329,080			
			新聞図書費	72,570			
			賃借料	172,630			
			租税公課	50,300			
			寄付金	30,865			
2 管理費			人件費	人件費	0		その他経費計 862,884
				その他経費	福利厚生費		
				採用教育費	22,800		
			外注費	17,350			
			荷造運賃	32,126			
			交際費	5,200			
			会議費	46,812			
			旅費交通費	23,116			
			通信費	136,132			
			消耗品費	423,120			
			新聞図書費	4,528			
			諸会費	59,500			
			支払手数料	12,406			
			保険料	13,010			
			租税公課	11,902			
		雑費	13,500				
		雑損失	39,741				
当期収支差額				1,207,850			
前期繰越収支差額				2,460,680			
次期繰越収支差額				3,668,530			
正味財産増減の部	正味財産増加の部	1 資産増加額	当期収支差額(再掲)	1,207,850	増加額合計 1,207,850		
		当期正味財産増加額			1,270,850		
		前期繰越正味財産額			2,460,680		
		当期正味財産合計			3,668,530		

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

		科 目		金 額		
経常収支の部	の経常収入	事業収入	特定非営利活動法人 活動事業から繰出	397731	39731	経常収入合計 39731
		事業費		0	0	経常支出合計 0
	経常収支差額				39731	
	当期収支差額				△39731	
	次期繰越収支差額				0	
正味財産増減の部	の正味財産増加の部	資産減少額	当期収支差額(再掲)			減少額合計 39,731
		当期正味財産増加額				39,731
		前期繰越正味財産額				△39,731
		当期正味財産合計				0

関連資料
注記一次期繰越収支差額

重要な会計方針（ 資金の範囲について）

資金の範囲には、現金・預金、前渡金、未収入金、買掛金、短期借入金、未払金、預り金及び長期借入金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記に記載するとおりである。

		科 目	前期末残高	当期末残高
資産の部		現金預金	2,074,337	6,113,167
		未収入金	1,271,946	0
		その他事業への繰り出し	164,541	0
		合計	3,510,824	6,113,167
負債の部		買掛金	16,973	180,333
		短期借入金	1,000,000	0
		未払金	30,000	263,064
		預り金	3,171	1,240
		長期借入金	0	2,000,000
		合計	1,050,144	2,444,637
	次期繰越収支差額		2,460,680	3,668,530

科 目		金 額	
資産の部	流動資産	現金預金	6,113,167
	流動資産合計		6,113,167
	資産合計		6,113,167
負債の部	流動負債	預り金	1,240
		買掛金	180,333
		未払金	263,064
	流動負債合計		444,637
	固定負債	長期借入金	2,000,000
	固定負債合計		2,000,000
	負債合計		2,444,637
正味財産の部	前期繰越正味財産		2,460,680
	当期正味財産増減額		1,207,850
	正味財産合計		3,668,530
	負債及び正味財産合計		6,113,167

科 目		金 額	
資産の部	流動資産	0	
	流動資産合計		0
	資産合計		資産合計 0
負債の部	流動負債	0	
	流動負債合計		0
	負債合計		負債合計 0
正味財産の部	当期正味財産増減額(当期純損失)		0
	正味財産合計		0
	負債及び正味財産合計		0

科 目			金 額		
資産の部	流動資産	現金預金	現金手元手元有高	41,190	6,113,167
		当座預金	ゆうちょ銀行	78,312	
		普通預金	りそな銀行田辺支店	5,885,386	
			ゆうちょ銀行	77,091	
			Paypal	31,188	
	流動資産合計			6,113,167	
資産合計			6,113,167		
負債の部	流動負債	買掛金	外注費、NTT他	180,333	444,637
		預り金	源泉所得税	1,240	
		未払金	紺綿屋デザインファクトリー	263,064	
	流動負債合計			444,637	
	固定負債	長期借入金	国民金融公庫	2,000,000	2,000,000
	流動負債合計			2,000,000	
負債合計			2,444,637		
正味財産合計			3,668,530		

科 目			金 額			
資産の部	流動資産		0	0	資産合計 0	
	流動資産合計		0			
	資産合計		0			
負債の部	流動負債		0	0	負債合計 0	
	流動負債合計		0			
	負債合計		0			
正味財産の部	正味財産		0			

役 職	氏 名
理 事	和 田 隆 博(わだたかひろ)
理 事	酒 井 優 子(さかいゆうこ)
理 事	山 本 悦 二(やまもとえつじ)
理 事	坂 部 勝 則(さかべかつのり)
理 事	安 田 信太郎(やすだしんたろう)
監 事	今 中 博 之(いまなかひろし)



○1961年、大阪生まれ○大阪市立大学商学部 卒業○有限会社綿屋デザインファクトリー 代表取締役○大阪市立扇町総合高校 講師○大阪市立デザイン教育研究所 講師○日本グラフィックデザイナー協会 会員○大阪商工会議所 会員○大阪里親会 理事○ソーシャルデザイナー



遊びながら学ぶ/NPO法人
**子どもデザイン
 教室**
 Children Design Education

☎06-6698-4351
 〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-20-15
 ☎06-6698-4352 ✉info@c0d0e.com
 www.c0d0e.com